



第1回 2009年1月22日(木) 16:00~19:00 於：東京大学工学部1号館15号講義室

「30年でなしたこと、100年でなしてゆくこと - 山形 金山町」 報告レポート



鈴木 洋氏

風景というものは個人の所有ではなく、町民みんなの共有の財産

金山町は山形県の北東部、最上郡に位置している。鈴木洋 町長は、岸宏一 前々町長、松田貢 前町長のあとを引き継ぐかたちで、2008年4月より金山町長の職にあり、この町のまちづくりを推進してきた。金山型住宅と呼ばれる地域性あふれる住宅様式や、景観条例の制定など、先代、先々代の町長が提唱してきた金山のまちづくりをさらに推進させるとともに、新たにまちの担い手となってゆく次世代へ、どのようにまちづくりを受け渡してゆくか、これからも金山の挑戦は続いてゆく。



片山 和俊氏

町もある意味では住まい、大きい住まいではないか

林寛治、片山和俊、住吉洋二の3人が協力して進めてきた金山の空間整備も、もう20年以上の時間が経過している。「そこにある町の家という『点』的な要素が実は大きな風景のなかではとても重要。この1軒が違ふと、実は自然の風景は壊れてしまう。それがやがて『面』的な関係になっていくということに意味があると思っています」ひとつひとつの家を大切にしながらも、大局的な視点からもまちづくりを考える。3人の人柄とも通じるような繊細でのびやかな空間が金山のまちに息づいている。



パネルディスカッションの様子

第1回を終えて ~次世代へとつづくまちづくり

まちづくりを対象とした連続シンポジウムも、無事第1回のスタートを迎えることができた。100年をみすえているといわれる金山のまちづくりも、現在30年ほどが経過し、ある節目を迎えている。これまでの経緯と成果を的確に評価し、これから次世代の担い手にどのように受け渡してゆくのか。まちづくりには終わりはなく、ヒト・カネ・モノをどのように持続させてゆくのか。これから数回にわたる連続シンポジウムの中で、各地域の事例を通しながら、知恵と経験の共有、次世代へとつながるようなまちづくりについての議論が行われればと願っている。



撮影：小野寺 康氏

プログラム

開会挨拶 篠原 修 (GS代表/政策研究大学院大学)

基調講演 鈴木 洋 (金山町長)

基調講演 片山 和俊 (東京藝術大学)

パネルディスカッション+会場質問

パネリスト：林 寛治 (林寛治設計事務所)

片山 和俊 (前出)

住吉 洋二 (武蔵工業大学教授)

岸 三郎兵衛 (金山町森林組合代表理事組合長)

江川 直樹 (関西大学)

進行役：中井 祐 (GS/東京大学大学院)

閉会挨拶 内藤 廣 (GS代表/東京大学大学院)

文責：

川添善行 (東京大学助教)
zoe@keikan.t.u-tokyo.ac.jp

GSデザイン会議